

令和5年度

社会福祉法人ふたば福社会 事業報告

令和5年度 事業報告

全体の法人運営に関連する事業報告は以下の通りです。

□実施事業一覧 別紙

□法人の基本姿勢 ～法令遵守の徹底～

- ・関連法令の遵守はもとより、広義の意味での社会的ルールやモラルを遵守した経営を行う。
また、公共的・公益的かつ地域から信頼される経営を行う。
- ・虐待やハラスメント等人権侵害に対する理解を深め、取り巻くリスクを未然に防止するための取組を行う。

□人材の定着に向けた取組の再考と強化

○福祉・介護職員等処遇改善加算を活用して給与の増額を実施

- ・ベースアップ加算の算定（月額 6,300 円～10,000 円）
- ・特定処遇改善加算の算定（月額 7,500 円～11,500 円）
- ・臨時特例交付金の活用 令和6年2月～5月（月額 5,000 円）
- ・令和5年度、処遇改善加算の事業所総額（事業区分数 17 ※相談以外）約 5,000 万円は全て職員の待遇改善の為、給与・手当として支給済み（法定福利費を含む）
- ・パート職員について、処遇改善加算を利用した年数換算式を導入し時給の見直しをおこなった。

○令和6年6月から

複数あった「処遇改善加算」の制度が一本化され加算率が引き上がった為、給与・手当の支給額を増額。

□職員のメンタルヘルスケアを実施

○昨年度に引き続き、常勤職員のメンタルヘルスケアを目的に専門家（浅井育子氏:公認心理師、臨床心理士）に依頼、職員の心の健康を保つための取り組みを実施（ハンドコンサルテーション）

令和6年度からはパート職員含む全職員に範囲を広げ希望者全員が複数回利用できる取り組みとする。

- ・また、ハンドコンサルテーションと合わせて、コミュニケーションの活性化などを目的に「チームビルディング」の手法を取り入れた取り組みを相談している。

「チームビルディング」では個の支援からチームや組織の結束力を高め、チームとしてのビジョンや価値観を共有した動きができるようになる為のアドバイスいただく予定。

～ハンドコンサルテーションとは～

カウンセリングは「すごく悩んでいる人が行くもの」というイメージが日本ではまだまだあるなかで、もう少し気軽に、日々のしんどいことや気になること、自分についての話ができる場所をという思いで心理士の浅井育子さんが発案した手法。

ハンドオイルを使ってマッサージをしてもらいながら話を聞いてもらう。

□専門性・支援スキルの向上

○専門性の担保・支援スキルの向上・資格の取得

常勤職員 95 名、現在の資格取得者の内訳は下記の通り

社会福祉士 11 名・介護福祉士 29 名・保育士 8 名・管理栄養士、栄養士 3 名・看護師、准看護師 3 名

(※所属事業所の業務に関連した資格のみ記載)

今後も資格取得を目指す職員に対し、業務調整等支援を行う。

○各種研修への派遣

○強度行動障害支援者研修 基礎・実践を受講

○実践研究委員会については年度ごとに形を変え継続して実施予定 (和歌山大学 山崎由可里先生)

□コンサルティング機能を活用した経営分析について

○内藤会計事務所の協力の元、経営分析を行ったうえで理事会等の資料を作成、安定的な財務基盤の確立を目指している。

資料を基に管理者・経営陣が俯瞰した視点で全体を見た動きが出来るように準備した。

せっかく県内有数の会計事務所が関わってくれているので、今後は発信と分析したデータを活かす理解力を全体で培う必要がある。(令和 6 年度から全体管理者会議の開催)

○課題となる中長期計画について

① 予算管理の正確な理解⇔②予算を事業計画へ反映させる⇔③その事業計画を元に中長期計画を作成という流れが確立できなかった。令和 6 年度以降、①～③が連動する形作りを目指す。

その上で、事業の計画と照らし合わせて法人の財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理を行う。

また、中長期的視点からの事業計画と財務計画を立て、健全で持続可能な経営基盤を確立する。

○10 月のインボイスへの対応については事務長を中心に移行準備を進めた

□法人内事業所人事交流 継続的に実施

○取り組みの意味合い

通常業務だけでは、同じ職場、自分と同じ業務に携わる人としか、知り合うチャンスがなく、その様な環境は、外部からの刺激が少なく閉鎖的な状態になりがち

幸いふたばには多くの事業所がある為、その状況を活かし事業所間人事交流をすすめた

事業所交流で生まれるメリットは、普段関わりの少ない他事業所の人や知識と出会える点であり

そこから、新しい視点やアイデア・気付きが生まれる可能性が大きく、振り返りも行える

さらに、他者とコミュニケーションをとる為、もし日々の業務中で気分が停滞していたとしたら気分も変わる可能性もある

・令和 6 年度、法人内事業所人事交流を継続する。

今後は取り組みを発展させ、法人内だけでなく、交流のある他法人との連携による人事交流ができないか模索する。

□社会福祉法人の責務である「地域における公益的な取り組みの実施」

・はぐみ 音楽会 (7 月 滝浪ゆかりさん)、お披露目会、地域の高齢者との交流

- ・第二 文里地区廃品回収（6月、9月、12月、3月）
- ・いきいき 春祭り（4月）
- ・たなかの杜 カーニバル（11月） 等々 各事業所で実施
- ・4月21日「地域との交流」と位置づけているナカマルマルシェをビッグU 多目的ホールで開催
ナカマルマルシェとは：地域の方々が集える場所を提供し、多くの人がつながる地域づくりを目指し、多くの人の交流が生まれるイベント

□西牟婁振興局・和歌山県の指導監査（原則として3か年に1回）

- 令和5年6月27日 ふたば作業所・ふたば第二作業所
- 令和5年8月3日 児童発達支援センター 通園ありんこ
- 令和5年10月6日 たなかの杜・容器・包装リサイクルセンター
- 令和5年12月12日 はぐみ
- 令和6年1月25日 はッピーわーく・いきいき作業所

- ・法人本部作成の職員の雇用契約書への文言追加等 軽微な指摘はあったが、重大な指摘・問題はなかった。
2024年4月からの制度改定へ各事業所対応した。

□外部理事の選任

- ・令和5年6月27日の定時評議員会で元田辺市社会福祉協議会 事務局長の山中小夜氏を選任
今後、法令に基づく要件を遵守しながら、可能な限り外部理事の選任を進め、外部の様々な意見を取入れ法人運営に活かす。

□理事会・定時評議員会の開催

- ・以下の通り開催した。
理事会
令和5年6月12日（月）
2022年度事業報告、2022年度決算、監事監査報告について、定時評議員会の招集について、評議員会に提出する理事及び監事の候補者について、評議員選任・解任委員会の外部委員について、理事業及び常務理事の職務執行状況の報告

令和5年6月27日（火）
理事長及び常務理事の選任について

令和5年10月30日（月）
予算執行状況、理事会で承認が必要な事項について、理事業及び常務理事の職務執行状況の報告

令和6年3月8日（金）
令和6年度人事について、就業規則の変更について

令和6年3月29日（金）
補正予算（案）、令和6年度事業計画（案）、令和6年度予算（案）について、理事会決裁必要事項、理事業及び常務理

事の職務執行状況について、紀陽銀行「ビジネスライン」契約の承認について

・ 定時評議員会

令和 5 年 6 月 27 日（火）

2022 年度事業報告、2022 年度決算について、監事監査報告について、理事・監事の選任について、役員等報酬規程の変更について

□ B C P の作成準備 2024 年（令和 6 年）度より義務化

○ 「大規模震災や水害などの自然災害が起きたとしても、障害福祉サービスを継続的に提供できるよう体制を整えるための計画」を各事業所で準備

（一定の要件のもと経過措置はあるが、感染症の BCP と災害の BCP、どちらか一方でも策定していなければ減算が適用される為、各事業所でガイドラインに沿って作成を進めた。）

□ その他 次年度に向けて

・ 地域の労働人口の減少により人材の確保が年々厳しくなっている。その為、令和 6 年度からは高校への求人を初めて実施する予定

求人を出すにあたり、未経験の新卒者でも安心して働けるように法人内 OJT（実務を通じて行う職員の教育訓練）による計画的な次世代の人材育成を行う。

ここでは、受け入れ事業所として成人が「ふたば第二作業所」・児童が「児童発達支援センター 通園ありんこ」とする。

また実務だけでなく、資格取得のための支援も視野に入れ、成人の事業所では実務経験が 3 年経過後から介護福祉士の資格取得を目指す。

児童の事業所では実務経験が 2 年の任用資格要件を満たした後、児童指導員として勤務し、保育士へのステップアップができるよう支援する。

人材の確保・育成については、集めることばかりに焦点を当てるのではなく、今いる職員さんを辞めさせないことが重要と考え、やめる要因を減らす取り組みを続ける。（所得補償・休日確保・良好な人間関係の確立）

- ・ 職員の心の健康 （福利厚生） ⇒ 支援の質の向上や虐待防止につながる
- ・ 職場の環境整備 ⇒ 定着率上昇につながり安心して働くことのできる
- ・ 職員の生活基盤の安定 （給料） ⇒ 離職率の低下につながる

・ 令和 6 年度以降もグループホームの働き方の改善を最優先課題とし、その課題を整理することで関連する様々な事項が好転する機会になると考えている為、取り組む。

その他の課題については、法人内で優先順位を明確にしながらか進めていく。